

招待席

## 児玉花外

こだまかがい 詩人 1874（明治7）年～1943（昭和18）年京都市生まれ。同志社に学びキリスト教的社会正義にめざめて弱者に目を向け、1903（明治36）年、刊行直前に押収された『社会主義詩集』は我が国初の発禁詩集となった。掲載作は、翌1904（明治36）年、木下尚江、岩野泡鳴ら59人の「同情録」をそえて刊行された「花外詩集」の一編で、「わが詩集の発売禁止の翌朝」という注記をつけて、抵抗精神を示した。「明治文学全集83 明治社会主義文学集（一）」（1965年7月、筑摩書房刊）に抛り、収録。電子文藝館では、『社会主義詩集』から、「失業者の自殺」を掲載している。

## 朝顔に対して

（わが詩集の発売禁止の翌朝）

昨夜、悲憤に寝もやらず  
凭るゝ窓の下白う

朝顔咲けり美はしく、  
花も自由に開くもの

人の思想の何ゆゑに  
残忍の手に破はれし、  
吁、戦場を楽園とかへ  
花を咲せむ心をば

朝日を碎き、潮を堰き、

雲を消すべき術あらば  
世紀を越えて勃興りたる  
かの新思想圧すべし、  
涙に湿し人々の  
蒔きに蒔くなる愛の種子  
失せず、滅びず、華開き  
平和の世界とはなりぬべし。

Kodama Kogai

日本ペンクラブ 電子文藝館編輯室

This page was created on Feb 28, 2009